

県 外 派 遣 報 告 書

審判員名（報告者）	小山 洋一	所 属	社会人連盟
大 会 名	第 2 回 JSB 関東ブロック審判講習会		
期 間	2月5日・12日・22日～23日		
会 場	武蔵野総合体育館・練馬区総合体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
2月5日・12日	オンライン研修	ZOOMにて 参加者自宅他	
22日	実技講習会	武蔵野総合体育館	
23日	実技講習会	練馬区総合体育館	
研修会 講義内容			
●桑原 一貴 氏 『3 PO のベーシックなメカニクスとポジションアジャストの重要性』 ・目標達成について：レフリーとしての目標（目的地）、どんな取り組みをしているか（現在地）、どんな取り組みが求められるか（経路）、それぞれを知ること。知っていることとできることは別であることを知る。 ・メカニクス（エリアとアングルについて）：エリアにアングルを加えることで機能的なメカニクスの実現へつながる。 ・メカニクス（ポジションアジャスト）：1つひとつのプレーを継続して判定するためにポジションアジャストをする。IOT（45度とオープンアングル、ステイショナリとディスタンス）を遂行しアングルを維持し続ける。プレーが遠いとプレーが大きく、ゆっくり見える。反対にプレーに近いと小さく、速く見えるため適切な距離を保つことが安定した判定につながる。 ●眞榮喜 工 氏 『プレコール（判定力）を向上させる笛のタイミングと使い分け』 諸事情により欠席			
担当試合①			
期 日	2月22日（土）		
対戦カード	如月クラブ VS MMF		
ク ル ー	CC：森本 裕司 氏（山梨県） U1：小山 洋一（埼玉県） U2：渡邊 希有 氏（茨城県）		
ミーティング内容		審判主任：松本 祐大 氏（栃木県）	
▶ゲーム前の PGC 初めて吹くクルーなので、しっかりとベーシックなメカニクスを行い、まずは自分のプライマリを治める。その中でアングルが取れているときはセカンダリとして笛が入れられるように準備する。両チームとも12月の全日本社会人関東ブロック予選に出場しており、MMFは関東ブロック優勝し、全日本社会人に出場している。非常にハイレベルな内容になると予想されるので危機感を持ちつつ、タフなバスケットができるように判定していく。他の試合を見ていると TO 管理、特にタイマー、ショットクロックの管理が必要なケースが多く見受けられるので確認をして必要なタイミングで適切に処置できるように準備する。 ▶ゲーム後のミーティング 今回の対戦カードは関東ブロックでもベスト8以上に入ってくるゲームであると考えられる中で、1試合通してファウルの判定が軽く感じた。もっとタフにプレーさせるところを簡単に決着つけてしまっていた。もっと長くプレーを見て RSBQ の影響を確認してから判断する。時計の管理を積極的に行っていて良かったが、まずはプライマリを優先。持っている人は必要な時にタイミングを見て訂正に行く。3人の協力が薄く感じたので再開方法や時計の修正、レポートも含め声をもっと使って情報の共有、発信をして行けるとさらに良かった。EOQ、EOG の見せ方がはっきりしなかったのでしっかりと伝えられるように考える必要があった。			

個人的にはこのゲームで一番難しいと感じたものはクルー間でのゲーム中のコミュニケーションだった。初めてのクルーでどのようにすればより良い判定に3人の基準をすり合わせていくことができるのか、どのような言葉を出せばよかったのか考えすぎてしまっていた。今後はもっと発信して共有できるようにしていく。ゲーム中プレーを長く見て判定することができていた部分は良かった。その中で、受け渡しの部分やオープンアングルで見ていたもの、見えてしまったものに対して判定したもののプライマリが誰なのか、自分は何番手なのかをもっとよく考えて準備していなければならないと感じた。

担当試合②

期 日	2月23日（日）
対戦カード	三井住友銀行本社 VS 浅草 PLAYMATES
ク ル ー	CC：照屋 祥紀 氏（千葉県） U1：小山 洋一（埼玉県） U2：小椋 哉斗 氏（山梨県）
ミーティング内容	審判主任：石崎 公一 氏（群馬県）

▶ゲーム前の PGC

前日のゲームでの改善点や講師の方に頂いたアドバイスの共有。事前研修のベーシックなメカニクス、笛のタイミングの確認。チームの情報が少ないため、早めにキープレーヤーを見つける。常に得た情報は共有して、知らないという状況をつくらない。処置ミスゼロにもつなげる。

▶ゲーム後のミーティング

1 試合通して、中にはもっとプレーを長く見てから決断すべきものや、笛のタイミングを変えた方が良いものもあったが、3人それぞれが自身のプライマリを意識しながら判定していることが多かった。チームの情報があまりない中でコミュニケーション3人がしっかりとコミュニケーションを取り、キープレーヤーを把握し、共通してしっかりと判定することができていた。また、コミュニケーションが取れていたことでメカニクスの確認や修正が素早くできた。時計の管理なども必要な人が適切なタイミングで行えていた。タイムアウト明けの再開や交代などの時間のかけ方を意識することでよりスムーズなゲーム運営、ゲームコントロールにつながるので改善できると良い。

個人的には、コミュニケーションが取れていたことによりいつも以上に集中して自身の見るべきものにフォーカスして判定ができていたように感じたので続けていきたい。その反面、セカンダリとしての準備ができていなかった部分もあったので、なぜ準備できていなかったのか映像で振り返り、メカニクスの理解と改善をしていきたい。また、POCに説得力をもっとこだわらなければいけないと感じた。

全体の感想

はじめに、JSB 関東ブロック委員会の皆様、インストラクターの皆様、お世話になりました。このような講習会を開催していただき有難うございました。皆様の手厚い指導があり、非常に有意義な時間となりました。有難うございました。東京都社会人連盟の皆様には細部にわたるご配慮を頂き、お世話になりました。有難うございました。受講生の皆様、2日間ご一緒できたこと嬉しく思います。有難うございました。また、今回の講習会へ派遣して下さった埼玉県バスケットボール協会、日頃より活動を共にしている県内審判員の皆様、社会人連盟の皆様へこの場をお借りしてお礼申し上げます。有難うございました。

今回、初めて講習会に参加させて頂き、各都県の受講生の勢いを凄く感じたとともに、強い刺激になりました。東京都のリーグ戦を使わせて頂きましたが、どの試合も難しく、自身の未熟さを痛感しました。初日に担当 IR の方から映像を使って振り返り、その場で詳しくレクチャーして頂いた為、翌日の判定に生きてきた場面も多く、日頃の反省の仕方をさらに深めていこうと思えました。今回の講習会を通してであった仲間も大事にし、切磋琢磨していければと思います。また、今回の講習会で学べたこと、頂いた好評、アドバイスはすごく自信になりました。今回の受講生の中から A 級へ上がる方が一人でも多く出ることを祈るとともに、自分自身が上がっていけるように精進してまいりますので、御指導ご鞭撻の程宜しくお願いします。

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	山宮 紅葉	所 属	社会人
大 会 名	第2回 関東ブロック関東講習会		
期 間	2025年 2月22日 ～ 23日（参加日：2月22日、23日）		
会 場	2月22日 武蔵野総合体育館 2月23日 練馬区総合体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
2月 5日	第1回 zoom 机上講習	ZOOM 会議 参加者自宅他	
2月 12日	第2回 zoom 机上講習	ZOOM 会議 参加者自宅他	
2月 22日	ゲーム 勉族 vs レッドリボン軍	武蔵野総合体育館	
2月 23日	ゲーム 東京消防庁 vs リヴナイト東京ウエスト	練馬区総合体育館	
審判会議、研修会 講義内容			
●2月5日 第1回オンライン講習（講師：桑原一貴氏） ①自己紹介[Introduction] ②目標達成[Achievement] ③エリアとアングル[Mechanics] ④メカニクス[Mechanics] ⑤目標達成[Crossing] →②目標達成[Achievement] 目的地（目的やなりたい状態、理想）➡経路（求められていることを知る【自身の強みと弱みを知る】） ➡現在地（今の状態、割り当てられる量、割り当てられる回戦、レフリーに注力できる環境、職場や家庭の理解、ルールとメカニクスの理解、理解度と遂行度） ・目的地と現在地を知っても目的地に着かないことを知る。知っていることとできることは別であることを知る。 →③エリアとアングル[Mechanics] メカニクスを無視すると、▶プライマリーだけ：プレーに依ってはオープンなアングルがとれない。 ▶アングルだけ：見るべきプレーが定まらない。 Total➡安定して精度高い判定の再現性が低い。 エリアにアングルを加えることで機能的なメカニクスの実現 ▶プライマリー：見るべきプレーが定まってポジションが変わる。 ▶アングル：見るべきプレーに適切なアングルが取れる。他のポジションから見づらいアングルのフォローになる。 ・一つのプレーを継続して判定する。IOT（45度とオープンアングル、ステイショナリーとディスタンス）を遂行する。 ・基本的なメカニクス T（Outside-in,45°,Drive to the basket,Shootclock）、 C（Workingarea,Off-ballcoverage,Drive to the basket） L（mirror the ball,Outside-in,Non working area,Rotation,Edge）			
 それぞれのポジションによって A、P、E、K、3、O、Dの 見方が違う。			
☆アングルに関して。右図参照 →この点をよく理解する。だからこそより良いアングルアジャストが必要。 →④メカニクス[Mechanics] ・1試合に何回決断をするのか。 A.1試合に700回くらい決断をして、そのうち可視化されるのは10%程 メカニクスについてクリップ参照,			

→⑤目標達成[Crossing]

- ・目標を達成するには、取り組み始めてから変わる。いきなり上手くなる事はない。
- ・経験する事、準備する事、人のやり方を見聞きする。成功だけで目標達成することすごい事である。
- ・レフリーもチームも運営に携わる方も多くの方が「バスケットが好き」という共通点があることを忘れずに「バスケットを楽しみましょう」
- ・レフリーは、マニュアルと競技規則が時に自分を守ってくれる。その為様々な知識を覚える必要がある。

● 2月12日 第2回オンライン講習（講師：眞榮喜工氏）

◎それぞれの意味の理解

Quick whistle A .emotiona
Patient whistle A .primary
Cadence whistle A .secondary
Immediate whistle A .大ごとになる前に

➡◎何のために？

- A .リーガルをイリーガルとしないために、吹かなくて良いコンタクト、吹かないで良いコンタクトを吹かないため（marginal）、イミディエイトなものへの嗅覚、対応
- ・プライマリーの判定プロセス、セカンダリーの判定プロセスの理解
 - ・「試合を始めて、進めて、終わらせる」 → ゲームコントロール、メカニクス、プレー・コーリング、プレゼンテーション、コミュニケーション、デリバリー
処置ミスなし 判定ミスはどの試合にもある。
 - ・罪なきを罰せず。→ファウルでもヴァイオレーションでも。絶対に吹かなくてはならないものが、なくなってしまうということがないように。

担当試合①

期 日	2月22日（土）
対戦カード	勉族（淡） vs レッドリボン軍（濃）
ク ル ー	CC：山宮 紅葉（埼玉） U1：江崎 康紀氏（茨城） U2：小玉 暖人氏（神奈川）
ミーティング内容	審判主任：久保あしみ氏（千葉）

▶PGC

・自己紹介

- 県外同士で、違う年齢で、関わることの貴重な時間を大切にして試合に臨む。
- バスケット感覚やプレーの考えが違う事は当たり前にある。その中で「クルー」で同ゲームを進めていくかを3人で考えていった。
- ➡3名とも TO 委員にそれぞれ所属しており、TO 管理は徹底していこうと話すことができた。

・Basic Mechanics & Basic Playcalling

的確な判定の積み重ねによりそのゲームで何が起きているのかメッセージを残す。

→プライマリーの意識とポジションアジャスト

- ・EOGとEOGの確認、ファウルだけでなくヴァイオレーションのテンポセット、TOとのコミュニケーション
- ・処置ミスの無いう、アイコンタクトと確認。
- ・チーム情報の共有

▶ゲーム後のミーティング 審判主任：久保あしみ氏（千葉）

- ・ゲームにおいて大切な「ベーシック」な部分が欠けていた。
 - T O 後の再開場所やクルーの位置等。雑になってはいけない部分、確認して再開すべき部分が疎かになっていた。
- ・ゲームにおいて入れるべき笛は入っていたが、それぞれのプライマリーでの判定はどうだったか。
 - プライマリーを超えてプレイをフォーカスしてしまうことがあった。
- ・判定面では、「なぜその判定になったのか」を見返し確認。
 - +クルー全体でセンターサイドでのアングルアジャストがボール中心になってしまい上がってしまうことが多くあった。
 - +テクニカルファウルが出た部分に関しては、素早い処置で良かったが、1ゲームを通して鳴らしているもの（ヴァイオレーション、フ

アウル) がプレイヤーに対して伝えられなかった。

・クロック管理はそれぞれができていたが、より素早くスムーズに TO 管理をできると良かった。

→TO 席から遠い場所で訂正をすることがあったので、ゲームを止めて TO 席まで行き説明をする。

担当試合②

期 日 2月23日(日)

対戦カード 東京消防庁(淡) vs リヴナイト東京ウエスト(濃)

ク ル ー CC: 山宮紅葉(埼玉) U1: 椎名 佑弥氏(栃木) U2: 白澤 健斗氏(山梨)

ミーティング内容

審判主任: 本間 さとみ氏(東京)

▶ゲーム前の PGC

・自己紹介

+ 昨日のゲームについての課題や気づいた点の共有。

・Basic Mechanics & Basic Playcalling

的確な判定の積み重ねによりそのゲームで何が起きているのかメッセージを残す。

→プライマリーの意識とポジションアジャスト

・EOG と EOG の確認、ファウルだけでなくヴァイオレーションのテンポセット、TO とのコミュニケーション (▲)
(▲) 昨日の TO の感覚とレベルを考えての準備

・処置ミスの無いよう、アイコンタクトと確認。

・チーム情報の共有

▶ゲーム後のミーティング

・コンタクトに関して、リーガルとイリーガルをそれぞれで見極めて判定していた。

→反面、笛は入っていたが、プライマリーを超えての判定や判定が全体的に見られた。

Cadence と patient の理解。

・映像を介してそれぞれの現象の確認

→ゲームの雰囲気とフローを考えて判定を重ねていく必要があった。

●閉講式にて。

▷白川義一氏より

・2 日間を通して「FUL」に関してもっと丁寧に見ていく必要がある。〈Foot Up Landing〉

→叩く、押すというコンタクトだけでなく、その現象の前後を見て判定。

・オフボールの接触にももっと目をむけていく必要がある。

→オンボールだけでなく、早めにオフボールプレイにも目を向ける。

・Quick whistle、Patient whistle、Cadence whistle の使い分け。

→全てが cadence、patient では無い。ラインクロス等は quick whistle でないと、プレイヤーも TO も困ってしまう。

▷本間さとみ氏より

・まずは「ベーシック」を大切に。基礎がとても大切で、マニュアルがとても重要。

・講習会で出会えた仲間を大切に、切磋琢磨できる環境作りを自分たちで作って欲しい。

県外派遣報告書

審判員名	加藤 諒也		所属	社会人連盟		
大会名	第2回 JSB関東ブロック審判講習会(東京都社会人リーグ戦)					
期間	2/22(土)、23(日)					
会場	2/22(土) 武蔵野総合体育館 23(日) 練馬区総合体育館					
スケジュール						
期 日	内 容			場 所		
2/5(水)	第1回オンライン研修会			自宅(Zoom)		
2/12(水)	第2回オンライン研修会			自宅(Zoom)		
2/22(土)	実技 1日目			武蔵野総合体育館		
2/23(日)	実技 2日目			練馬区総合体育館		
会議 講義 内容						
● 2/5(水) 第1回オンライン研修会「3POのベーシックなメカニクスとポジションアジャストの重要性」 東京都S級 桑原 一貴 氏 ・3人の場所(アングル)によって見え方が大きく違う、特に対象物同士が接触しているかどうかはアングルによって見え方が大きく変わってくる。 ・だからこそそのトラストクルー、トラストメカであり、プライマリのレフェリーは「判定をし続ける」ためのポジションアジャストが非常に重要。 ・最後は競技規則とオフィシャルズマニュアルが自分の身を守ってくれる。改めて理解を深めることを。 ● 2/12(水) 第2回オンライン研修会「プレコール(判定力)を向上させる笛のタイミングの使い分け」 埼玉県S級 眞榮喜 工 氏 ・クイックホイッスル:「鳴らしちゃったコール」≡ 分析時間の無い笛 ・プライマリ内のベシエントホイッスルと相手プライマリ内のケイデンスホイッスルの使い分けが重要。 ⇒ 2025年オフィシャルズマニュアルにもこれら2つが追記される。(第2章 ターミノロジー)						
実技						
担当試合	期 日	2/22(土)		男子 女子		
	対戦カード	特別区 VS TITANS		CC	U1	U2
	相手審判	CC: 山田 晃大 氏(東京都)、U1: 滑川 孝太 氏(千葉県)				
ミーティング内容 主任 群馬県2級IR 金子 治 氏						
・個人の反省にあった通り、①Cのメカニクス、②ケイデンスホイッスルの使い方が課題 ・①Cのメカニクスに関しては、ステイしてプレイを捉えることもできることもあれば、もう少し「アジャストしてプレイを捉えること」が必要なものもある。 ・②ケイデンスホイッスルの使い方に関しては、自分のプライマリ外で自分が鳴っているがために不必要なダブルホイッスルとなってしまっているケースがある。プライマリの理解を深め、そこからのアングルの分担によって改善していただきたい。						
担当試合	期 日	2/23(日)		男子 女子		
	対戦カード	Marksmen VS 葛飾バックボーン		CC	U1	U2
	相手審判	CC: 森川 美也 氏(群馬県)、U2: 向中野 心 氏(神奈川県)				
ミーティング内容 主任 東京都1級IR 島袋 竹志 氏						
・3人とも非常に良いクルーワーク。こういった機会ですべてクルーを組む中で、しっかりとアイコンタクトも取りながら、ゲームを円滑に進めていた。 また3人ともGood No Callが多く、それが結果的にこういった1点を争う好ゲームを引き出せたと思う。 ・3Q終盤から両チームのこのゲームに対する本気度が上がり、ゲームの質が変わった変わり目ですっきりとそれを感じ取ってアジャストできていた。 ・ショットクロックがリセットされていないケースに気付いたり、EOGのTO請求が認められないタイミングでのTO請求に対して、それを正しいルールでの理解で対処していたのはGood。あとはそれに対してのベンチへの説明の仕方等は課題か。もっとスマートに、スムーズにできるとより良かった。						
-----東京都 S級 久保 裕紀氏 コメント----- ・EOGのTO請求を認めなかったケース、ルールと状況を全て把握していたのであれば、あの瞬間はもっと強くゲームを引っ張って良かった。時間と点差を考えたら丁寧な説明とかよりも、強さを持って「認めません！すぐスタートします！」という姿勢のほうが良かった。						
全体の感想						
埼玉県の社会人連盟を代表して、JSB関東ブロック講習会に派遣いただきました。今回は昨年の第1回に続いて、2年連続の参加でありましたが、今回も学びの多い研修期間でした。特に強く感じているのは、2日間のオンライン研修会の内容が、実技の2日間での反省点として上がってきており、自身の準備不足や頭で理解したつもりになっていることが、オンザコートで表現できていない、自らの弱点を再認識する良い機会になりました。ただその中でも、TO管理など自分の強みは試合後のMTGIにおいても評価いただいたことから、そこも再認識することができ、これらの弱点を克服し、強みを伸ばして今後の審判活動へ活かしていきたいと思います。また前回に続いて今回も県外のIRの方々ならびに審判員との繋がりができたことは自身にとって非常に大きな財産になったと思いますので、今後もこういった県外派遣を勝ち取れるよう、今回感じたこと/学んだことを胸に研鑽を続けて参る所存です。 最後になりますが、今回派遣くださいました社会人連盟審判長の和田様、副審判長の清水様、そして研修会開催にあたって多大なるサポートくださいましたJSB関東ブロック白川様、石崎様、ならびに当日ご指導くださいましたIRの皆様をはじめ本研修会に関わる多くの方々に感謝申し上げます。						

※本報告書の体裁は報告者自身にて自由に変更いただき問題ありません。分かりやすい図や写真を入れることも可能です。